



天神塚古墳

1400年前の古墳で、鬘櫛川古墳群の一つです。奥行6.5m、幅2.3mの南に開口した両袖型横穴式石室を持つ。入口部の石積みの丁寧さに特色があります。



立正寺

休息山立正寺は、四千坪もの寺域をもつ日蓮宗の寺院です。この寺院は大宝2年(702)役小角が創立したといわれます。のちに奈良仏教三論宗に属することになり「子安山地蔵寺」と称し、さらにその後、延長3年(925)真言宗に代わって「金剛山胎蔵寺」と改めています。参道には多くの坊が並んでいたといわれ、今でも東之坊・北之坊・上之坊・正覚坊などが残っています。



下馬碑

総門跡地には「ここから先は下馬しなさい」と命じる「下馬碑」が残っています。江戸時代の初めに、後水之尾天皇の側近中院通村の助力で立正寺に帰属し、昭和27年に再発掘されたもので、その文治元年の年号を巡っては検討の余地があります。



飯縄神社

飯縄神社は慶安2(1649)に創建され、本殿と拝殿はこの時作られたものと伝えられています。本殿は江戸初期の彫刻が見られ、向拝部分には改修したあとがあります。ご神体は空から落下してきた小石であると伝えられています。境内には、大黒天社の石祠がまつられています。また、近くには祭礼に使われていた花火の木筒が3本保管されています。



萬福寺

等々力山萬福寺は「杉の御坊」の名を持つ浄土真宗の寺院です。「杉御坊」の名は親鸞上人が箸を地面に刺したところ、その箸が大きな杉の木になったという伝説に由来します。寺記によれば、推古天皇12年(604)、聖徳太子の命により創建されたとも、巨摩郡にあった天眼寺を移したとも伝えられています。法相・天台・真言の三宗を兼ねた道場でしたが、親鸞の教えに従って寛元2年(1244)に浄土真宗となり、元享元年(1321)に十二坊が興されたといわれています。



寺町

正保3年(1646)、萬福寺の頭塔十二坊のうち、九坊が浄土真宗の大谷派(東本願寺派)に属し、独立して移転し等々力の寺町がうまれました。移転当初は道の南側に沿い、東から仙光寺、円成寺、光源寺、賢正寺、浄蓮寺、西教寺、慶専寺、報恩寺、専立寺と並んでいましたが、寛延2年(1749)2月の寺町、萬福寺大火以後、浄蓮寺が甲州街道側に、慶専寺と専立寺が道北側に移転再興され現在に至っています。